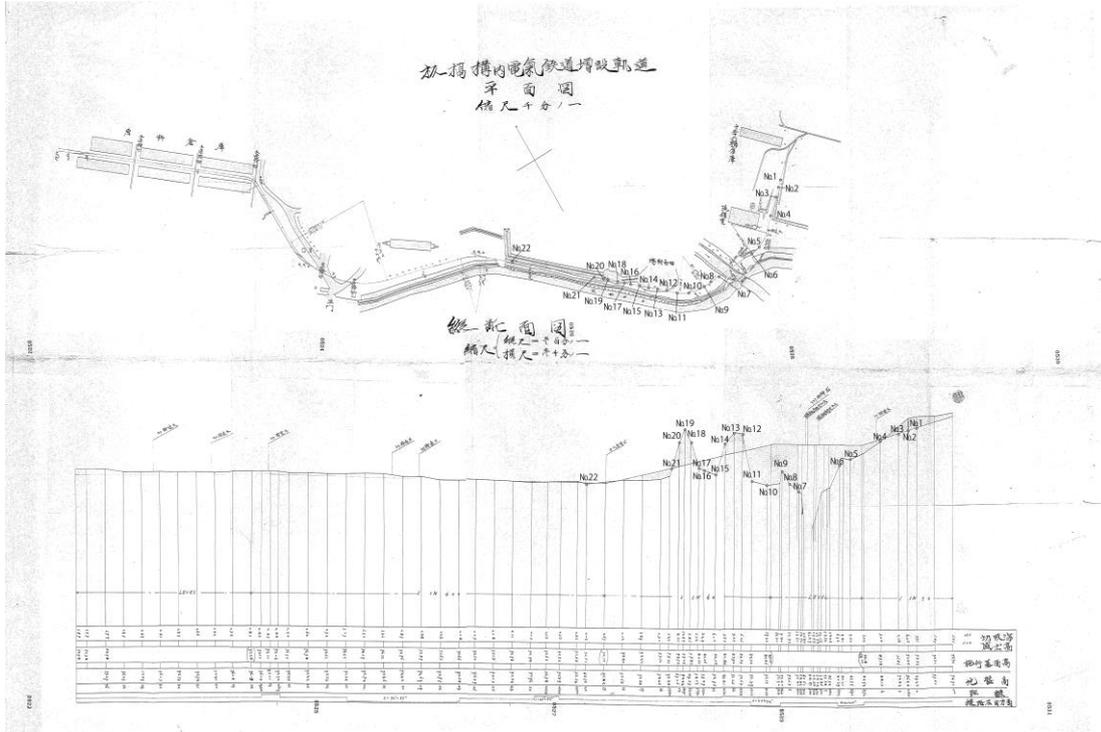


| | |
|------|---|
| 名称 | 軌道敷き |
| 建築年代 | 明治 40 年 |
| 構造 | 砂利敷き上に枕木とレールを敷設する。終戦時にはコンクリと敷きカ |
| 用途 | 現板橋区域と北区域に展開した軍の工場や施設間を結び、各工場の暖房やボイラーなどに使う石炭などの物資や製造された製品の運搬、製造所内外を含む従業員の連絡を行う。 |
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・明治 28 年頃から赤羽火薬庫に軽便軌道を敷設しており、何度かの延長を経て明治 40 年に板橋火薬製造所まで延伸された。 ・軽便軌道の敷設に伴い、当初築かれていた築山や発射場に関連すると見られる土塁を削平している。 ・『造兵彙報』第 10 巻によると、大正 12 年 4 月当時において、「王子板橋間を運行」する「蓄電工場車」・「貨車」、手押しと思われる「木製トロック」などが掲載されている。 ・昭和 26～27 年にかけて、旧東京第二陸軍造兵廠内に残るレールの撤去に関する史料が残り、レールがコンクリートに固定されていたと記されている。 |

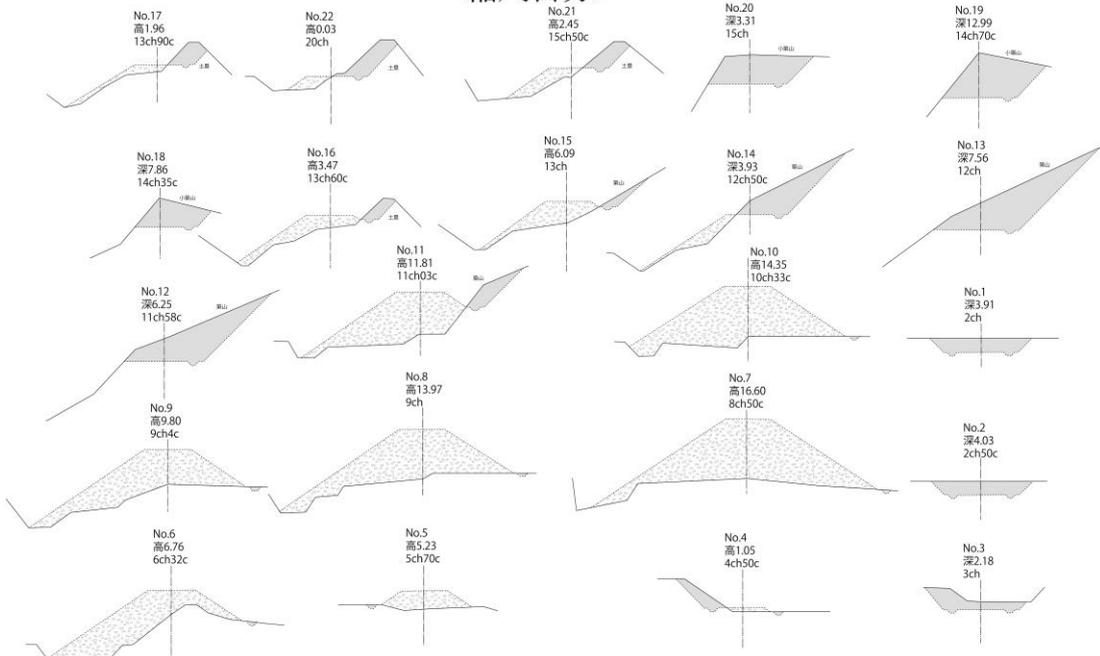


軌道敷き部分

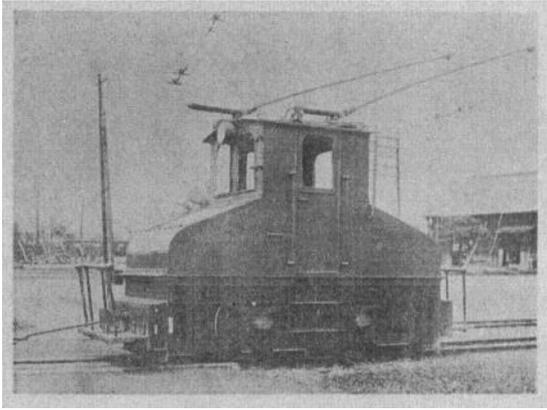


「東京 本年度建造物変更の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C07051274300
 明治40年「伍大日記 自7月至9月」（防衛省防衛研究所）109-118 画像目を合成・トレース

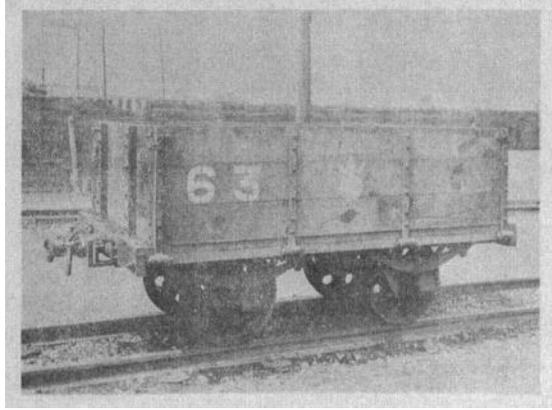
電氣鉄道線路横断面図
 縮尺百分ノ一



「東京 本年度建造物変更の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C07051274300
 明治40年「伍大日記 自7月至9月」（防衛省防衛研究所）120-127 画像目を合成・トレース



『造兵彙報』の蓄電工場車



『造兵彙報』の貨車



昭和 48 年 8 月頃撮影 旧野口研究所内の軌道敷き（史跡内）



加賀公園内の軌道敷き



旧野口研究所内の軌道敷き